

令和3年度第1回多治見市総合教育会議 議事録

(要点筆記)

日 時：令和4年1月20日（木）午後3時00分 ～ 午後4時50分

場 所：多治見市役所本庁舎2階大会議室

出席者：【会議構成員】

多治見市長	古川雅典
教育長	渡辺哲郎
教育委員（職務代理者）	中澤佳代
教育委員	大嶽和好
教育委員	加藤智章
教育委員	木下貴子

【事務局】

《教育委員会》

高橋副教育長、林教育次長、河地教育総務課長、久野教育研究所長
水野食育推進課長、勝見教育委員会事務局課長（放課後児童健全育成調整担当）
矢野教育推進課主幹、丸山教育指導監、山田課長代理（教育推進課）
水野課長代理（教育総務課）、長谷部課長代理（教育総務課）、吉川課長代理（教育相談室）、加藤課長代理（文化財保護センター）、渡邊課長代理（食育推進課）、野村主査（教育総務課）

《市長部局》

皆元課長代理（企画防災課）

《校長会》

田中校長会長（多治見中学校長）

1 市長挨拶

コロナの対応については、教育委員会を孤立させないよう多治見市全体として取り組んでいく。県立多治見病院、市民病院、多治見市医師会が協力して、ワクチン接種の打ち手を確保している。去年は、各学校においては、修学旅行に行けたし、体育祭もできたし、それについては良かったと思っている。コロナワクチンについては、小学生にも接種するという話も出てきているので、サポートしていく。2021年は、ギガスクール、食育センター、小泉小等のビッグプロジェクトを完成することができた。笠原小中一貫校は、消極型の一貫教育ではなく、積極型一貫校という考え方で整備する。地元をサポートしていただいで進めている。道路の拡幅については、地元の協議も終わっている。笠原が行ってきた幼保小中、英語教育も成熟してきている。不登校の問題については、福井県に視察に行ってもらったことにした。福井県は、不登校が最も少ない県のうちのひとつである。学力や体力もトップレベルである。この視察は今回限りではなく継続して

いきたい。

2 教育委員長挨拶

今回の総合教育会議の開催について、市長に感謝申し上げます。今年度の学校教育も市長と強い連携のもと、学びの保証や通常登校ができ、良かったと思っている。今年度のビッグイベントは順調にここまで進めてこられた。今日の会議で教育委員会の最新の課題の状況の説明と今後の進め方について協議したい。

3 議題

(1) G I G Aスクールの構想の効果と課題について（久野教育研究所長説明）

【加藤委員】

体育や音楽のように動画が撮影できるのはとても参考になると感じる。子どもはどんどん習熟していくが、親がついていけないという話を聞いたことがある。親を巻き込んでの取り組みについての可能性はあるか。

【久野教育研究所長】

情報モラルを学びたいという話は聞いたことがある。コンテンツも用意してあるので、子どもが家庭に持ち帰ったときに一緒に学んでいただければと思う。

【木下委員】

自分で自分の姿が見られるのは、人と比べたりできるという点で良いと思う。自分の子どもが、かなり使いこなせていて感心した。T T ネットで情報を共有できるのは、教師の皆さん同士で参考になるので良いと思った。学校の現場でこんな使い方が良かったというものがあれば、ご教示いただきたい。

【久野教育研究所長】

アンケート結果が即時に表示されるのが良いと思った。個別最適化のところでお話したように、子どもの習熟度がそれぞれなので、それぞれにあった使い方ができるのが良いと思った。先進的な使い方をしている先生もいるので、情報を共有できれば良いと思っている。

【中澤委員】

説明を聞いて、こんなことができるんだということに驚いた。先生方もお互い学びあっていて、素晴らしいと思う。I C Tはスピードが早いというか、やりとりが早く、素晴らしいと思う反面、1 時限が 45 分という時間では、深く内省する時間、掘り下げる時間が足りないのかもしれないと思う。体験することが大切だという話も聞いたが、より高度なことが求められることになると思った。

【大嶽委員】

ギガスクールという名称は、世界に繋がる扉であり、全ての児童生徒のために進行していると思った。先生方のITのリテラシーの向上はどのように進んでいるか気になっていたが、今の説明で研修や支援員の制度により進んでいるなという印象である。不適切な使用については、いじめによる事例もどこかの自治体であったと思うが、先ほどの説明で情報モラルの説明もあったが、今後配慮されていくと思うが、よろしく願いたい。手書きの学習の機会の増加についてどのように取り組んでいくのかを検討していただきたい。TTネットについては、先生方の成果を情報共有して欲しい。

【市長】

手書きの学習とTTネットについて、補足説明をお願いします。

【久野教育研究所長】

すべてタブレットになるわけではなく、今年はとにかくいろいろやってみようということやってきた。紙に書くことも大事なことである。TTネットについては、広く共有できるように周知している。様々な実践がすぐにわかるし、子どもにすぐに還元できる良さもあるので、今後も積極的に取り組んでいきたい。

(2) 不登校児童・生徒の現状と対応について（吉川課長代理説明）

【大嶽委員】

民生委員の研修に出席した時に聞いた話だが、引きこもりの対応については、まず気づくことが大事で、傾聴、共感し、専門機関に繋ぎ、その後見守っていくことが重要であるとのことであった。不登校の対応についても、初めから説得ということではなく、まず話を聞くことが大事だと思う。不登校から引きこもりになるようなケースはあるか。

【吉川課長代理】

担任と顔をあわせられないようなケースはある。学校に来られない、外に出られない子どももいる。関係機関と連携して対応にしている。

【大嶽委員】

不登校の子どもが進学すると思うが、例えば、高校へ行ってどんな様子かとか、改善はあったのかとか、中学卒業後の情報共有等はあるのか。

【吉川課長代理】

高校の先生と情報を共有することはある。

【大嶽委員】

その情報共有の中で、小中の指導に活かせるものが何かあるのか調べていただきたい。年齢に伴っての変化で何かわかったことがあれば、紹介していただきたい。

【中澤委員】

子どもたちへの対応が、細かく手厚くなっている印象を受けた。不登校の子どもたちの進路はどのようになっているか。

【吉川課長代理】

全員ではないが、特に、さわらび学級に関わった子どもについては、卒業後どこに進学等したかは把握している。9割ほどの者は進学している。卒業後の動向についてはある程度把握しており、全日制に進学したり、全日制に合わなくても定時制に変更する者はいるが、退学する者は少ない。

【中澤委員】

残りの1割の子どもは家庭に入ったままで、福祉の機関に繋ぐということなるという状況だが、福祉のサポートが大事だなと思う。SSWの存在が大きいと思う。多治見は2人のSSWの方がいて、他の自治体よりも多いということだが、さらに手厚くしていただきたい。学校に来たけど、相談室に入れないうちもいる。その子をどうするかということだが、ほんの小さな居場所、机やイスが一つあるだけでも違うと思う。せっかく学校に来たら、家には帰したくないという思いがある。熱心な親だと進路情報を得たりすることもあると思うが、生活するのに精いっぱい親だと子どもまで気が回らないこともあるかもしれないが、そのような親との関わりはどのようにしているか。

【吉川課長代理】

教師は、母であり、父であるという面を持ち合わせながら、子どもと関わり、寂しさを紛らわせることが大切だと思っており、教師の意識改革も必要だと思っている。

【市長】

ひとり親や経済的な困窮家庭の学習支援の状況について、補足説明をお願いします。

【勝見教育委員会事務局課長】

家庭教師のトライという業者に委託し、集合型と訪問型の学習支援を行っている。希望者が増えてきたので、来年度は集合型の拠点を増やす。ひとり親だけでなく、条件を緩和して学習支援を行う。

【木下委員】

多治見市では様々な活動をしていただいていることが再認識できて、ありがたいと思った。SSWの方が本当に良くやっていただいていると思うし、活動内容も良くわかったし、2人もいることもありがたい。子ども支援課や保健センターとの連携もうまくできていると感じた。ある学校の学習支援の取り組みが他の学校でも同様に取り組めるように情報共有して欲しい。不登校の子どもは様々な集団に入っていくことが難しいと思うので、タブレット端末という画面で切り離されているだけでも落ち着く感じがあると思う。段階を経て、教室に行けるようになると良いと思う。画面を通じて話していると、次の段階として直接会うこともできるようになると思う。さわらび学級に通っている子どもは、学校に通っていることになるのか。

【吉川課長代理】

さわらび学級に通っている子どもは出席扱いである。さわらび学級は、大事な居場所であって、学校と繋がりが切れることなく対応している。

【加藤委員】

通信制の学校に通う子どもたちも普通の子どもたちなので、なぜ不登校なのかと思ったことがある。通信制でも家にいるよりかはずっと良いと思う。通信制の学校ともう少し連携がとれば良いと思う。不登校の要因の1位が、「友人関係」ではなく、「無気力不安」であったが、曖昧な感じがするので、もうすこし細かく調べられないかと思う。また、学校別で調べられないかと思う。それぞれの学校で要因も異なると思われる。

いじめについて、いじめた側の指導教育はどのようにしているのか。

【吉川課長代理】

いじめの被害にあわせたことも良く理解させ、被害にあわせたその子どもとも一緒に学校生活していかないといけないので、いじめた側も当然指導している。

(3) 笠原義務教育学校の進捗状況について（河地教育総務課長）

(4) 学校のコロナの発生状況について（高橋副教育長）

【市長】

これを持って、令和3年度第1回総合教育会議を閉会する。

以上